

下北半島（津軽海峡側）における貝類の遺骸群集について

石山 尚 珍*

ISHIYAMA, Shochin (1981) Sur les masses des coquilles morts à Shimokita péninsule (à côté du détroit de Tsugaru). *Bull. Geol. Surv. Japan*, vol. 32(8), p. 449-457.

Résumé: Examinant la distribution des coquilles dans le détroit de Tsugaru, ils existent l'influence du courant chaud de Tsushima qui passe le détroit de Tsugaru.

Quant aux coquilles habitant au bord de la mer, à mesure qu'il va à l'est de la côte, il y a une tendance que les coquilles des caractères des courants chauds augmentent un peu à la fois.

C'est-à-dire, en large du cap de Shiriya-zaki, les espèces des coquilles ayant des caractères des courant chaud, sont plus que nombreux en côte en face par Pacifique aux environs.

1. はじめに

新生代の化石研究の一環として、東北日本の太平洋側及び日本海側における現生種貝類の分布と、その生息環境に関する調査を続行している。昭和49年度には青森県水産試験場の協力のもとに、水深20-400mの津軽海峡海底における300点以上の採泥試料を得ることができた。目下これらの試料から貝類と底質を選別分類中であるが、とりあえず下北半島沿岸の貝類遺骸群集についてまとめ、既に調査をした亀田半島側のそれと比較検討してみた。

2. 調査地

下北半島の西から東へかけて第1図のごとく奥戸(1)・大間崎(2)・くぐり石(3)・ちぢり浜(4)・木野部(5)・馬子次郎(6)・吉野牛川(9)・尻屋海岸(10)・尻屋崎(11)の9地点で貝類を採集した。その他、青木(1959)による石持納屋(7)と、奈良・岩井(1960)による東通村入口(8)のデータがあるので、これらを加えた11地点の遺骸群集の調査研究を行った。

3. 種類

これら11地点で採集できた貝類は多板綱に属するもの1科1種、腹足綱に属するもの19科42種、斧足綱に属するもの17科32種で、合計すると37科75種となった(第1表参照)。

ただし、東通村入口における採集データ(奈良・岩井, 1960)にはホンヒタチオビがあげられているが、これは

筆者の長年にわたる各地の採集結果からみて関東南部以外の海域では生息していないことから、外形のよく似たオオヒタチオビをホンヒタチオビに見まちがえたものと考えられる。

4. 生息環境

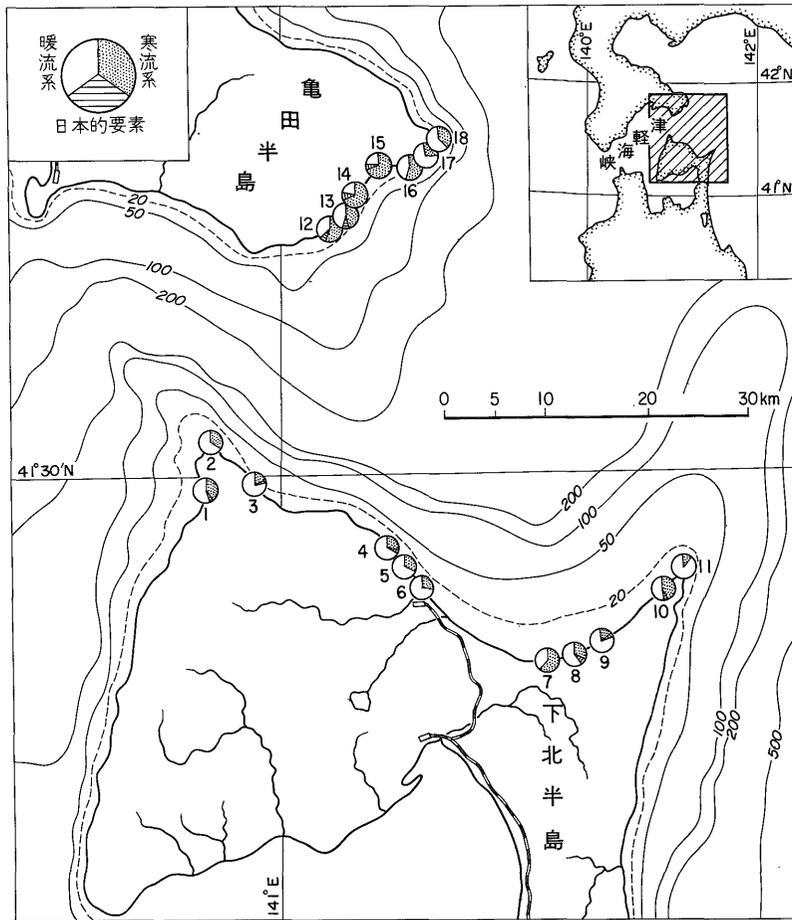
各採集地点の生息環境を推定するために、まず採集した貝を暖流系(31°N以南から分布するもの)、寒流系(31°Nを南限とし41°N以北まで分布するもの)、日本の要素(31°N-41°Nの間だけに分布するもの)の3つの要素に区分し、各採集地点ごとに、採集した各種の貝の分布緯度を横にとりながら積み重ねて生態グラフを描き、このグラフの面積の割合からさらに扇形グラフを作製してみた(第2図奥戸の場合を参照)。

貝の分布緯度についてはチェックリスト(KURODA and HABE, 1952)を参考にしたが、ヒラスカシガイ(P:~0~39, J:~40)のように40°Nまでの生息と記載されていても、木野部(5)で生貝が採集されたので、41°まで延長させたものもある。

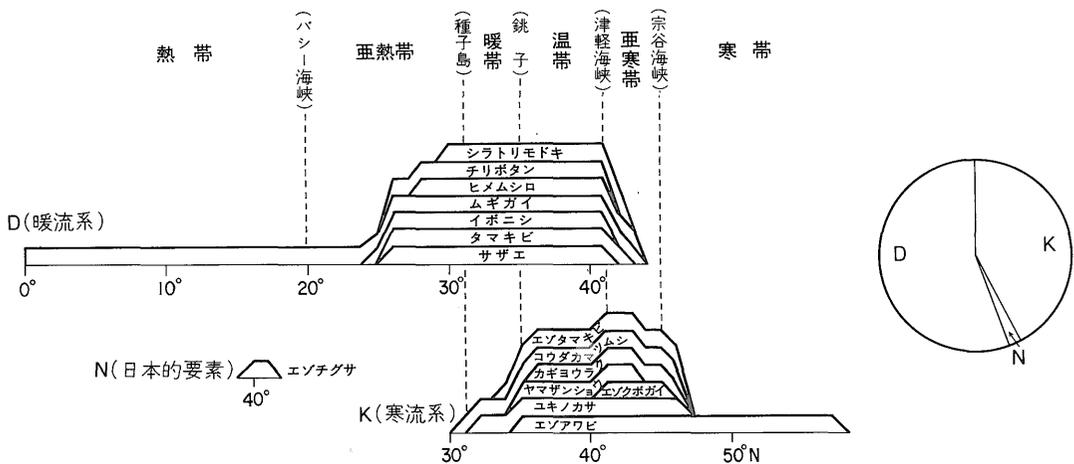
なお奈良・岩井(1960)による採集貝類のうちで、スクラアオガイ(本州中部以南に生息)はコウダカアオガイの色がわりと考えられ、ヤスリメンガイ(本州中部以南に生息)はチリボタンの、ウスユキミノ(房総以南に生息)はフクレユキミノガイのまちがいと思われるので、グラフからは除外した。

第2図に示した奥戸(1)と同じやり方によって大間崎(2)~尻屋崎(11)の扇形グラフを描いたのが第3図で、さらにこれらを採集地点へ落としたのが第1図である。この図をみると、石持納屋(7)以外の地点においては寒

* 燃料部



第1図 採集位置図と扇形グラフ



第2図 奥戸(1)に生息する貝の生態グラフ

第1表 採集貝類一覧表

種	類	分 布 緯 度 P : 太平洋側 J : 日本海側	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
			奥 戸	大 間 崎	く ぐ り 石	ち ぢ り 浜	木 野 部	馬 子 次 郎	石 持 納 屋	東 入 通 村 口	吉 野 牛 川	尻 屋 海 岸	尻 屋 崎
POLYPLACOPHORA 多板綱													
Cryptoplacidae	けむしひざらがい科												
<i>Acanthochiton defilippi</i> (TAPPARONE-CANEFRI)	ケハダヒザラガイ									○			
GASTROPODA 腹足綱													
Haliotidae	みみがい科												
<i>Haliotis discus hannai</i> INO	エゾ (クロ) アワビ	P : 39~57	J : 35~57	○	○	○	○	○	○	○		○	
Fissurellidae	すかしがい科												
<i>Machrochisma dilatata</i> A. ADAMS	ヒラスカシガイ	P : ~0~39	J : ~40					○					
Patellidae	つたのはがい科												
<i>Cellana eucosmia</i> (PILSBRY)	ベッコウガサ	P : ~0~39	J : ~42						○	○			
<i>Cellana toreuma</i> (REEVE)	ヨメガカサ	P : 12~51	J : ~51			○	○						○
Acmaeidae	ゆきのかさ科												
<i>Acmaea pallida</i> (GOULD)	ユキノカサ	P : 35~42	J : 32~46	○	○	○	○	○	○	○		○	
<i>Collisella grata</i> (GOULD)	カモガイ	P : 23~41	J : ~45			○	○	○					○
<i>Notoacmea concinna</i> (LISCHKE)	コウダカアオガイ	P : 23~45	J : ~45			○							○
<i>Notoacmea schrenki</i> (LISCHKE)	アオガイ	P : 22~41	J : ~40			○							○
<i>Notoacmea schrenki gloriosa</i> HABE	サクラアオガイ	P : 33~35								○			
Trochidae	にしきうず科												
<i>Calliostoma multiliratus</i> (SOWERBY)	ニシキエビス	P : 35~49	J : ~43				○		○	○			
<i>Cantharidus callichroa jessoensis</i> (SCHRENCK)	エゾチグサ	P : 38~41	J : 40~41	○		○	○					○	
<i>Monodonta labio</i> (LINNÉ)	イシダタミ	P : ~0~41	J : ~41			○						○	○
<i>Monodonta perplexa</i> PILSBRY	クビレクロズケガイ	P : 22~35	J : ~41			○				○			○
<i>Tegula argyrostoma sublaevis</i> (PILSBRY)	エゾクボガイ		J : 43~45	○	○	○	○						
<i>Tegula lischkei</i> (TAPPARONE-CANEFRI)	クボガイ	P : 26~39	J : ~42					○	○	○		○	
<i>Tegula pfeifferi carpenteri</i> (DUNKER)	オオコシダカガンガラ	P : 31~35	J : ~41			○	○						
<i>Umbonium costatum</i> (KIENER)	キサゴ	P : 31~35	J : ~37							○			
<i>Umbonium moniferum</i> (LAMARCK)	イボキサゴ	P : 25~42	J : ~43							○			
Turbinidae	りゅうてん科												
<i>Astraea japonica</i> (DUNKER)	ヒラサザエ	P : 31~36	J : ~41							○			

下北半島 (津軽海峡側) における貝類の産地群集について (石山高彦)

第1表 (つづき)

種	類	分 布 緯 度		1 奥 戸	2 大 間 崎	3 く ぐ り 石	4 ち ぢ り 浜	5 木 野 部	6 馬 子 次 郎	7 石 持 納 屋	8 東 入 通 村 口	9 吉 野 牛 川	10 尻 屋 海 岸	11 尻 屋 崎
		P : 太平洋側	J : 日本海側											
<i>Leptothyra sangarensis</i> (SCHRENCK)	ヤマザンショウ	P : 38~42	J : 35~43	○		○								
<i>Turbo cornutus</i> SOLANDER	サザエ	P : 26~35	J : ~41	○	○									
Vermiculariidae へびがい科														
<i>Serpulorbis imbricatus</i> (DUNKER)	オオヘビガイ	P : 30~39	J : ~43		○									
Littorinidae たまきび科														
<i>Littorina atkana</i> DALL	クロタマキビ	P : 43~	J : 39~56					○					○	○
<i>Littorina brevicula</i> (PHILIPPI)	タマキビ	P : 26~42	J : ~42	○		○	○	○	○					○
<i>Tectarius granularis</i> (GRAY)	アラレタマキビ	P : ~0~41	J : ~43					○	○					○
Naticidae たまがい科														
<i>Polynices didyma</i> (RÖDING)	ツメタガイ	P : ~0~42	J : ~45				○			○				
Cassididae とうかむり科														
<i>Phalium strigatum</i> (GMELIN) var.	カズラガイ	P : ~0~40	J : ~40				○			○				
Tonnidae やつしろがい科														
<i>Tonna luteostoma</i> (KÜSTER)	ヤツシロガイ	P : ~?0~39	J : ~43							○				
Muricidae あくきがい科														
<i>Ceratostoma japonica endermonis</i> (SMITH)	オオウヨウラク	P : 33~51?	J : ~41							○				
<i>Ceratostoma lumaria</i> (YOKOYAMA)	カギヨウラク	P : 34~55	J : 36~46	○		○	○							
<i>Polytropha freycineti hayseana</i> (DUNKER)	チヂミボラ	P : 35~43	J : ~41						○					
<i>Purpura bronni</i> DUNKER	レイシ	P : 25~41	J : ~41				○							
<i>Purpura clavigera</i> KÜSTER	イボニシ	P : 25~41	J : ~41	○		○	○	○	○				○	○
Pyrenidae たもとがい科														
<i>Pyrene burchardti</i> (DUNKER)	コウダカマツムシ	P : 31~51	J : ~46	○			○		○					
<i>Pyrene varians</i> (DUNKER)	ムギガイ	P : ~0~41	J : ~43	○						○				
Buccinidae えぞばい科														
<i>Neptunea arthritica</i> (BERNARDI)	ヒメエゾボラ	P : 36~45	J : 40~46				○	○		○			○	
Nassariidae むしろがい科														
<i>Nassarius acutidentatus</i> (SMITH)	ヒメムシロ	P : 28~43	J : ~43	○										
<i>Nassarius fratercula</i> (DUNKER)	クロスジムシロ	P : 31~42	J : ~44				○							
Fascioliariidae いとまきばら科														

地質調査所月報(第32巻 第8号)

第1表 (つづき)

種	類	分 布 緯 度		1 奥 戸	2 大 間 崎	3 く ぐ り 石	4 ち ぢ り 浜	5 木 野 部	6 馬 子 次 郎	7 石 持 納 屋	8 東 入 通 村 口	9 吉 野 牛 川	10 尻 屋 海 岸	11 尻 屋 崎
		P : 太平洋側	J : 日本海側											
<i>Fusinus perplex ferrugineus</i> (KURODA et HABE)	コナガニシ		J : 31~42									○	○	
Olividae まくらがい科														
<i>Olivella japonica</i> PILSBRY	ホタルガイ	P : 31~39	J : ~40				○					○		
Volutidae ひたちおび科														
<i>Fulguraria prevostiana magna</i> KURODA et HABE	オオヒタチオビ	P : 36~42	J : ~42									○		
Cancellariidae ころもがい科														
<i>Cancellaria spengleriana</i> DESHAYES	コロモガイ	P : ~0~39	J : ~40									○		
PELECYPODA 釜足綱														
Arcidae ふねがい科														
<i>Arca boucardi</i> JOUSSEAUME	コベルトフネガイ	P : 30~43	J : ~45				○			○	○		○	
Glycymeridae たまきがい科														
<i>Glycymeris yessoensis</i> (SOWERBY)	エゾタマキガイ	P : 34~44	J : 34?~46	○				○		○	○	○		
Mytilidae いがい科														
<i>Lithophaga curta</i> (LISCHKE)	イシマテ	P : 26~35	J : ~41											
<i>Mytilus edulis</i> LINNÉ	ムラサキイガイ	P : 34~51	J : ~46					○	○		○			
<i>Septifer virgatus</i> (WIEGMANN)	ムラサキイソコ	P : 14~42	J : ~44		○	○	○	○	○					○
<i>Volsella difficilis</i> KURODA et HABE	エゾヒバリガイ	P : 35~51	J : ~47								○			
<i>Volsella nipponica</i> OYAMA	ヒバリガイ	P : 25~41	J : ~41					○	○					
Pinnidae はぼうきがい科														
<i>Atrina japonica</i> (REEVE)	タイラギ	P : ~0~36	J : ~36									○		
Pectinidae いたやがい科														
<i>Chlamys nipponensis</i> KURODA	アズマニシキ	P : 31~42	J : ~42							○	○			
<i>Chlamys swifti</i> (BERNARDI)	エゾギンチャク	P : 38~51	J : 35~51							○	○			
<i>Pecten puncticulatus</i> DUNKER	ハナイタヤ	P : 31~42	J : ~42								○			
<i>Pecten yessoensis</i> JAY	ホタテガイ	P : 35~45	J : 36~46								○			
Spondylidae うみぎく科														
<i>Spondylus candidus</i> LAMARCK	ヤスリメンガイ	P : ~0~35									○			
<i>Spondylus cruentus</i> LISCHKE	チリボタン	P : 26~39	J : ~40	○	○									
Limidae みのがい科														

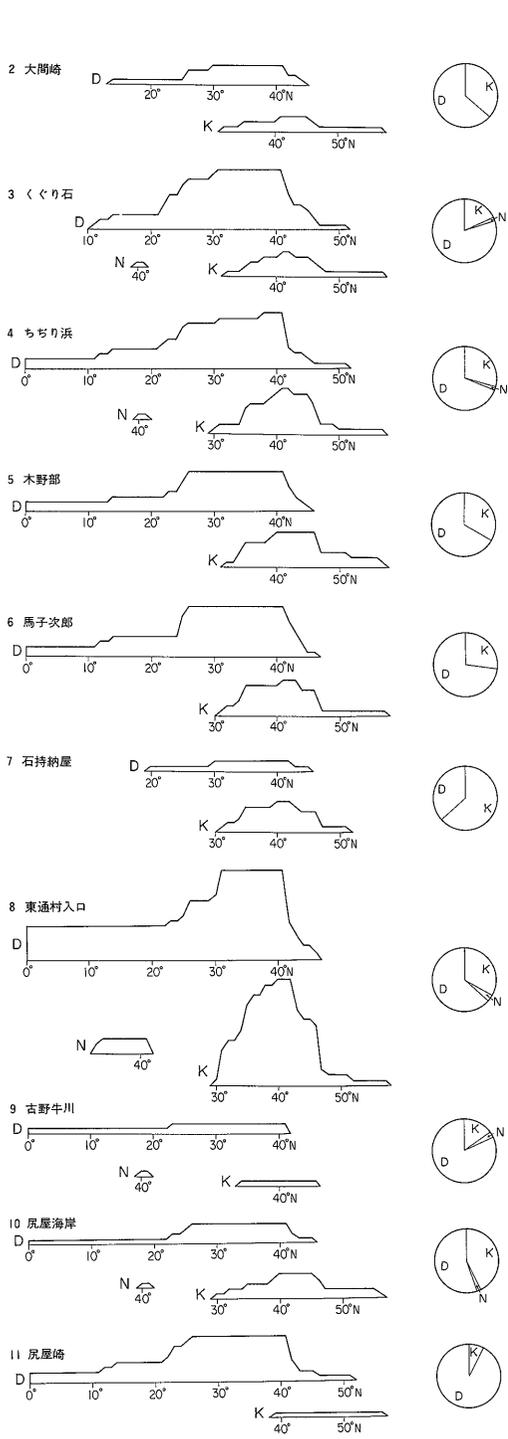
下北半島(津軽海峡側)における貝類の産地群集について(石山尚珍)

第1表 (つづき)

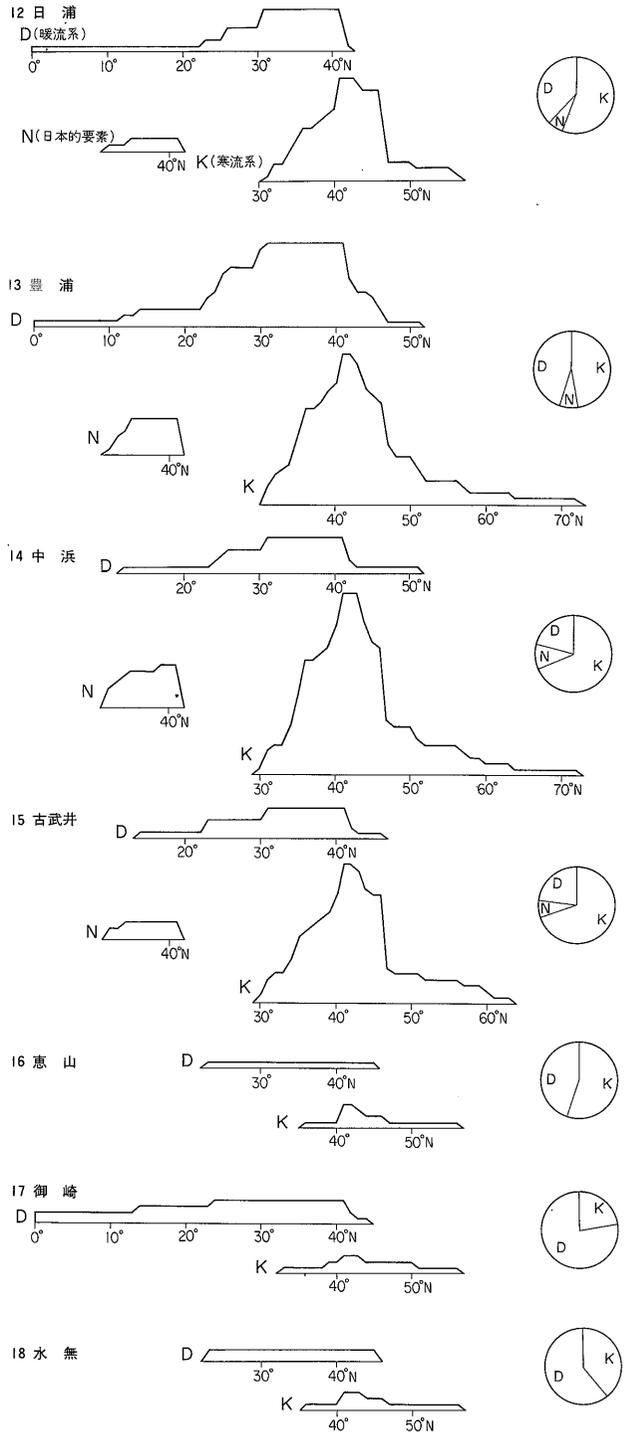
種	類	分 布 緯 度 P : 太平洋側 J : 日本海側	1 奥 戸	2 大 間 崎	3 く ぐ り 石	4 ち ぢ り 浜	5 木 野 部	6 馬 子 次 郎	7 石 持 納 屋	8 東 入 通 村 口	9 吉 野 牛 川	10 尻 屋 海 岸	11 尻 屋 崎
<i>Promantellum hirasei</i> (PILSBRY)	ウスユキミノ	P:31~37								○			
Anomiidae なみまがしわ科													
<i>Monia macrochisma</i> (DESHAYES)	ナミマガシワモドキ	P:39~57 J:38~46								○			
Ostreidae いたぼがき科													
<i>Gryphaea gigas</i> (THUNBERG)	マガキ	P:23?~43 J: ~46								○			
Cardiidae ざるがい科													
<i>Cardium bulowi</i> ROLLE	イシカゲガイ	P:34~43 J: ~41								○			
Veneridae まるすだれ科													
<i>Callista brevisiphonata</i> (CARPENTER)	エゾワスレ	P:39~45 J:38~46								○			
<i>Gomphina veneriformis</i> (LAMARCK)	オキアサリ	P:23~35 J: ~40									○		
<i>Paphia vernicosa</i> (GOULD)	アケガイ	P:26~41								○			
<i>Protothaca staminea euglypta</i> (SOWERBY)	ヌノメアサリ	P:35~45 J: ~46				○	○	○	○	○			
<i>Saxidomus purpuratus</i> (SOWERBY)	ウチムラサキ	P:32~42 J: ~43						○	○	○			
<i>Tapes semidecussata</i> (REEVE)	アサリ	P:25~45 J: ~46			○			○	○	○			
Mactridae ばかがい科													
<i>Mactra sulcataria</i> REEVE	バカガイ	P:31~41 J:40~41									○		
<i>Schizothaerus keenae</i> KURODA et HABE	ミルクイ	P:31~41 J: ~42								○			
Asaphidae りゅうきゅうますお科													
<i>Sanguinolaria olivacea</i> (JAY)	イソシジミ	P:30~41 J: ~42							○	○			
Tellinidae さらがい科													
<i>Macoma yantaiensis</i> (CROSSE et DEBEAUX)	シラトリモドキ	P:30~43 J: ~42	○		○								
Solenidae まてがい科													
<i>Solen gouldi</i> CONARD	マテガイ	P:31~42 J: ~42								○			
Myidae おおのがい科													
<i>Mya japonica</i> JAY	オオノガイ	P:31~46 J: ~46								○			
Lyonsiidae さざなみがい科													
<i>Lyonsia arenosa ventricosa</i> GOULD	オビクイ	P:31~35 J: ~40								○			
<i>Lyonsia navicula naviculoides</i> YOKOYAMA	フトオビクイ	P:39~43 J:40~46							○				

地質調査所月報(第32巻 第8号)

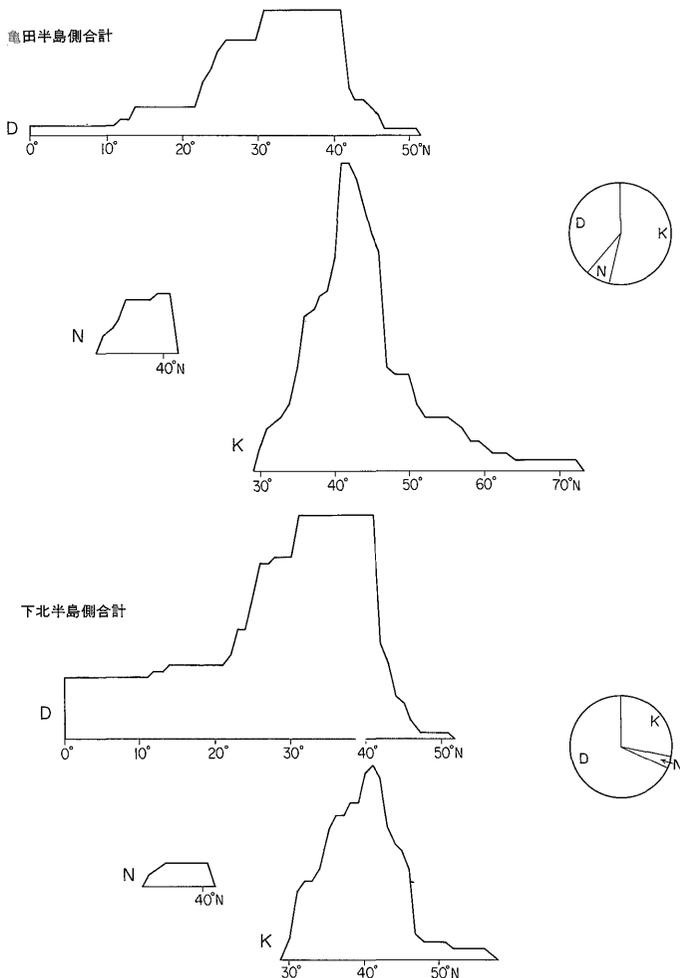
下北半島（津軽海峡側）における貝類の遺骸群集について（石山尚珍）



第3図 大間崎(2)～尻屋崎(11)における生態グラフ



第4図 日浦(12)～水無(18)における生態グラフ



第5図 龜田半島側と下北半島側の生態グラフ

流よりも暖流が優勢で、とくに尻屋崎には最も強く表われている。これは津軽海峡をぬけた対馬暖流の一部が太平洋沿岸ぞいに南下するために、尻屋崎方面へ暖流系の貝類が密集してくることを示している。なお石持納屋(7)で暖流が弱まっているのは、この海岸地形が南へ湾曲しているので、暖流の流路から遠ざかったためと思われる。また、凹んだ海底地形ぞいに潜入してきた寒流が、石持納屋の海岸へ影響を及ぼしていることも考えられる。

5. 龜田半島側

龜田半島側における貝類の生息環境については石山(1970)に報告されているが、その中から日浦(12)、豊浦(13)、中浜(14)、古武井(15)、恵山(16)、御崎(17)、水無(18)を抽出して、生息する貝類を扇形グラフで表わしたのが第4図及び第1図である。

これらの図をみると、龜田半島東端部の御崎(17)と水無(18)では暖流の影響が強く、それより西方では寒流の影響が大きくなる。なお中浜(14)と古武井(15)に寒流の影響が比較的強くでているのは、下北半島側の石持納屋(7)と同様な環境が考えられる。

6. 下北半島側と龜田半島側との比較

下北半島側の奥戸(1)～尻屋崎(11)で採集した貝類のうちで分布緯度がわかっているもの75種と、同じく龜田半島側の日浦(12)～水無(18)で採集した83種について生態グラフを描いてみると、津軽海峡を通過する対馬暖流の影響は、龜田半島側よりも下北半島側に顕著なことがわかる(第5図参照)。

文 献

青木 滋(1959) 下北半島の現生貝類. 資源科学研

下北半島（津軽海峡側）における貝類の遺骸群集について（石山尚珍）

- 究所彙報, no. 50, p. 35-36.
- 石山尚珍(1970) 浅虫・函館・恵山岬周辺における
貝類の生息環境の比較についての研究. 地
調月報, vol. 21, p. 165-186.
- KURODA, T. and HABA, T. (1952) *Check list and
bibliography of the recent marine mollusca of
Japan*. Hosokawa Printing Company, p.
210.
- 奈良正義・岩井武彦(1960) 下北半島入口付近海岸
の現生軟体動物(1). 青森地学, no. 3, p.
5-7.
- (受付: 1981年5月6日; 受理: 1981年6月17日)